

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 相談・支援活動から



### 1 語義の誤りやズレがみられる子どもへの支援

「また、遊びにおいでね」→毎日、遊びに行こうとする

「宿題なんかしないでいい!」→宿題を本当にやめてしまう

「掃除中だからトイレに入っちゃいけない」→ずっとトイレを使用してはいけないと思う

・慣用句、冗談、決まり文句、抽象的な言葉などの語義を正確にとらえられない、相手の心情が分からない、「白」か、「黒」かと二元論的な状況把握をすることが背景にある。

〈対応策〉

(1) 具体的な言葉で説明する

・「また、遊びにおいでね」の「また」とは、1週間後くらいのことだと伝える

(2) 短い言葉で簡潔に話す(二重否定は混乱する)

○「宿題が終わったらおやつにしようね」 ×「宿題が終わらないとおやつはなしよ」

(3) 慣用句の意味を覚える

・辞書やインターネットを使って、分からない言葉の意味を調べて確認する

(4) 言葉の意味を確認する

・伝言やおつかいをお願いして、徐々にレベルを上げていく

(5) 有意味な視覚的手がかりを活用する

・絵、図、写真等を用いて言葉の言外の意味を説明する



### 2 保護者研修会 「子どもを好きになるコツ」～今日からあなたも子育て名人～

〈みんな、いいところがある〉 短所に目を奪われずに、広いストライクゾーンを!

〈子どもが振り返ったときを見逃さない〉 子どもの不安や喜びを分かち合う!

〈しつけは繰り返し教えること、そして、待つこと〉 急がない、手を抜かない!

〈スキンシップが愛情を高める〉 親子のハグが優しい心を育てる!

〈思いやりは身近な人とともに育つ〉 人はいつも見ているものに、心が似てくる!

〈育児の喜び→子どもに期待できる喜びと子どもを幸せにする喜び〉 過剰な期待は禁物!

〈ダメなことを言えば言うほどダメになる〉 子どもは評価されたように育つ!

〈可愛がられた子どもがいい子に育つ〉 甘え・えこひいきのすすめ!

### 3 保護者のことば

・「障害のある子どもたちにとっては、周りの子どもたちの理解と支援が不可欠なので、『障害理解』のための授業を取り入れてほしい。」

→本校では、特別支援学校や障害児への理解啓発をねらい、毎年、夏休みに高校生や地域住民を対象とした「ボランティア講座」を開講している。夏休み後は、地域の小・中学校に出かけて、障害児の困り感を体験してもらう「出前授業」を計画している。

・片方の耳が聞こえない小学2年児童の母親。最近、女の子同士で「ひそひそ話」をするようになり、「どうして私の耳は聞こえないの?」と悲しそうな表情をするようになった。返事に困っていると、おばあちゃんが「神様はすべての人に宿題を与えている。〇〇さんの宿題は、片方の耳が聞こえなくても、明るく生きていくことなんだよ。」と説明したそうである。少し目を潤ませながら話してくれたお母さんを見て、温かい家族に支えられ、やがて〇〇さんは「自己理解・障害受容」できる日が必やってくると確信した。